

調査研究

看護学生のメディアからの情報収集に関する実態

— 本学看護学科 1 期生の入学時の調査から —

南雲美代子¹⁾ 滝内 隆子²⁾ 佐々木真紀子³⁾ 大島 弓子⁴⁾

STUDIES ON THE TENDENCY FOR OBTAINING INFORMATION'S FROM MEDIA IN NURSING STUDENTS -THROUGH A SURVEY TOWARD THE FIRST ENROLLEES OF THE DEPARTMENT OF NURSING AT THE BEGINNING OF THE FIRST SEMESTER-

Miyoko NAGUMO Takako TAKIUCHI Makiko SASAKI Yumiko OHSHIMA

抄録：日本赤十字秋田短期大学看護学科 1 期生におけるメディアからの情報収集の状況を明らかにする目的で、自由記載による質問紙での調査を入学時に実施した。調査内容は、新しい情報を得る手段、新聞の購読状況、読書志向などである。80の有効回答を集計した結果、以下の結論が得られた。1)新しい情報を得る手段は、電気通信系のマスメディアが多く、特にほとんどの学生が、テレビから情報を得ていた。2)新聞を毎日読んでいる学生が、約半数いたが、好きな新聞欄をみると、スポーツ・県内の出来事・テレビ番組など身近なことの欄が多かった。また、看護に関連する欄は全体の83件中6件とあまり読んでいなかった。3)読書の種類は、ミステリー小説を中心に幅広い種類の本を読んでいた。4)新聞を毎日読む学生は、情報を得るメディアの数や読書の種類も多かったが、新聞を読まない学生は、新聞だけでなく本や雑誌などの活字によるマスメディアからの情報収集も少なかった。

キーワード：情報収集,新聞購読,読書志向,メディア

To study the nursing students' tendency of obtaining information's from media, questionnaire was given to first enrollees of Japanese Red Cross College of Akita at the beginning of 1996 school year. The questionnaire consisted of; 1) the way of obtaining new information, 2) current subscription state of newspapers, and 3) preference of reading. Eighty effective replies were analyzed and several conclusions were drawn. 1) Most of students obtained news and information's from TV 2) Almost half of students read newspapers. However, attentions were paid mainly on casual articles like sports, incidents within the prefecture, and TV programs. Few student showed interest in articles concerning nursing (6 out of 83 answers). 3) Taste of reading was wide-spread and mystery novel were favored. 4) Students who preferred to reading newspapers everyday cover numerous kind of media and read more books. Contrary, those who scarcely read newspapers obtained limited information's from written-media such as books and magazines.

Key Words : obtaining information's, subscription state of newspapers, preference of reading, media

I. はじめに

情報化社会の現在、私たちのまわりを流れている情報は膨大である。それだけに、適切な判断をするためには、膨大な情報の中から、自分に必要な情報を選択していかなければならない。特に複

雑な判断を必要とする看護では、偏りのない多面的な情報を得ることが重要である。したがって、看護学生（以下学生という）が、どのようなメディアからどのような情報収集をしているのか、入学時に知ることは、今後、看護基礎教育をどのように提供していくかに生かすことができると考えられる。筆者らが担当している基礎看護学は、初めて学生が、接する専門科目であり、学生の情報

看護学科

1) 助手 2) 助教授 3) 講師 4) 教授

収集に偏りがあれば、幅広い情報を得ることができるよう早期に指導していくことが可能である。そのためにも学生が、どのような情報をどのように得ているのかを把握することは筆者らにとって重要である。

看護を学ぶ学生を対象としたメディアからの情報収集の調査は、筆者らのみる範囲では、これまで行われていない。また、短期大学生（以下短大生という）についても、情報収集調査の一部^{1) 2) 3)}としてはみられたが、メディアからの情報収集に関する調査は行われていない。そこで日本赤十字秋田短期大学（以下本学という）看護学科1期生に対し、日常生活における情報収集メディアとして身近にある新聞や本を中心にメディアからの情報収集がどのような実態であるか調査を行ったので結果を報告する。なお、この研究は入学時に本学1期生に実施した調査の一部である。

II. 研究目的

本学の学生が、どのようなメディアからどのような情報収集をしているのかを明らかにする。

1. 新しい情報をどのようなメディアから得ているのかを明らかにする。
2. 新聞の購読状況、また新聞からどのような情報を得ているのかを明らかにする。
3. 読書の領域・種類を明らかにする。
4. 新聞の購読状況により、情報収集メディアに違いがあるかどうか、また読書の種類に違いがあるかどうかを明らかにする。

<用語の操作的定義>

情報：判断を下したり、行動を起こしたりするために必要な知識、事柄。

情報収集：いろいろな情報を集めること、集めたもの。

メディア：(情報を得るための) 媒体、手段。

III. 研究方法

1. 調査対象：本学看護学科1期生80人
2. 調査期間：平成8年4月17日～平成8年4月24日
3. 調査方法：筆者らが作成した質問紙による留め置き調査。被調査者には、調査の目的を説明し了解を得たうえで記名式とした。調査項目は、a.新しい情報を得る手段、b.新聞の購読状況、c.好きな新聞欄、d.読書の領域・種類であり、b.については多肢選択法、a.c.d.については

自由記載法とした。

4. 分析・集計方法

多肢選択法の回答については、単純集計を行った。自由記載法の回答については、記載内容を研究者間で検討したのち、1要素1内容に分類した。カテゴリー化にあたっては、c.は、朝日新聞社発行の「知恵蔵」¹⁾の目次を参照して行い、a.d.については、共通した内容ごとに分類した上でカテゴリーとしての命名を行った。カテゴリー化の信頼性を高めるために、一定期間をおき5回検討を行った。また、研究者間で内容の妥当性についての検討を重ねた。これらの内容をカテゴリーごとに単純集計したのち、新聞の購読状況と調査内容a.c.d間でクロス集計を行い、差を明確にするために、カイ二乗検定を行った。

IV. 結果

1. 回答者数は80人、有効回答数は80であった。
2. 新しい情報収集のメディア

新しい情報収集メディアに記載のあった79人の記載総件数162件をメディア別に分類したものが、表1である。「テレビ」73件(45.1%)が最も多く、次いで「新聞」29件(17.9%)、「雑誌」25件(15.4%)であった。

表1 新しい情報収集のメディア

カテゴリー	記載件数(%)	記載内容(件数)
1. テレビ	73 (45.1)	・テレビ・テレビを見る (38) ・テレビのニュース (34) ・テレビの情報 (1)
2. 新聞	29 (17.9)	・新聞・新聞を読む・新聞を見る (27) ・新聞のニュース (1) ・新聞を活用する (1)
3. 雑誌	25 (15.4)	・雑誌・雑誌を読む・雑誌を見る (25)
4. 会話	16 (9.9)	・友達との話から (8) ・人から (5) ・親から (2) ・くちこみ (1)
5. ラジオ	13 (8.1)	・ラジオ (11) ・ラジオのニュース (2)
6. 本	5 (3.1)	・本を読む (5)
7. 図書館	1 (0.6)	・図書館 (1)

n = 162 (単位：件 複数解答)

3. 新聞の購読状況と好きな新聞欄

1)新聞の購読状況

新聞の購読状況は、図1に示す通り、『毎日読む』が36人(45.0%)、『時々読む』が26人

(32.5%)、『読まない』が17人(21.2%)であった。

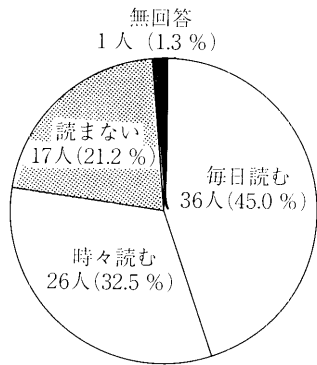


図1 新聞の購読状況 N=80 (単位:人)

2)好きな新聞欄

好きな新聞欄に記載のあった57人の記載総件数83件を部門・分野別に分類したものが、表2である。最も多かったのは、「政治・社会」の33件(39.8%)で、次いで「スポーツ」の22件(26.5%)、「テレビ・ラジオ」の11件(13.3%)であった。「サイエンス・テクノロジー」「文化」部門に関する記載はなかった。

次に記載内容別にみると、「スポーツ」が22件と最も多く、次いで「県内の出来事」「テレビの番組欄」の各8件であった。また、看護に直接関連する記載内容は、「医療・福祉関係」「健康」の合計6件(7.2%)であった。

表2 好きな新聞欄

部門・分野	記載件数(%)	記載内容(件数)
1. 政治・社会	33 (39.8)	・県内の出来事 (8) ・コラム (6) ・社会・社会欄・社会面 (6) ・社説 (3) ・医療・福祉関係 (3) ・読者の声 (2) ・事件欄 (1) ・いじめやエイズ (1) ・主張 (1) ・情報欄 (1) ・三面記事 (1)
2. スポーツ	22 (26.5)	・スポーツ (22)
3. テレビラジオ	11 (13.3)	・テレビの番組欄 (8) ・ラジオの番組欄 (3)
4. 生活	7 (8.4)	・健康 (3) ・生活欄・生活の知恵・家庭欄 (3) ・天気予報 (1)
5. 経済	2 (2.4)	・経済・経済面 (2)
6. 国際関係	1 (1.2)	・外国のニュース (1)
7. その他	7 (8.4)	・興味のあるところ (4) ・全体に読む (2) ・特になし (1)

n = 83 (単位:件 複数解答)

4. 読書の領域・種類

読書の領域・種類について記載のあった76人の記載総件数113件を分類したものが表3である。「小説」が36件(31.9%)と最も多く、次いで「ノンフィクション」「看護・医療関係」が各13件(11.5%)、「エッセイ」が11件(9.7%)であった。「小説」の記載内容として「推理小説・シドニシャルダン」のミステリーが13件あった。また、看護に直接関係のある記載内容は、「看護・医療関係」「福祉関係」の2種類16件(14.2%)であった。

表3 読書の領域・種類

カテゴリー	記載件数(%)	記載内容(件数)
1. 小説	36 (31.9)	・小説 (13) ・推理小説・シドニシャルダン (13) ・恋愛小説 (4) ・物語 (2) ・三浦綾子の小説・村上龍の本 (2) ・心理小説 (1) ・近代小説 (1)
2. ノンフィクション	13 (11.5)	・ノンフィクション (6) ・闘病記 (2) ・ドキュメンタリー・ドキュメント (2) ・実話 (1) ・旅行記 (1) ・人生を描いたもの (1)
3. 看護・医療関係	13 (11.5)	・医療関係の本 (6) ・看護・医療関係の本 (3) ・看護婦の経験を書いた本 (2) ・移植について (1) ・看護関係の本 (1)
4. エッセイ	11 (9.7)	・エッセイ (11)
5. 詩集	4 (3.5)	・詩集・詩の本 (4)
6. いろいろな本	4 (3.5)	・いろいろな本 (4)
7. 特に決めていない	4 (3.5)	・特に決めていない (4)
8. 福祉関係	3 (2.7)	・手話関係の本 (1) ・障害者の本 (1) ・福祉関係の本 (1)
9. 興味のある本	3 (2.7)	・興味のある本 (3)
10. ファッション	3 (2.7)	・ファッション・ファッション雑誌 (3)
11. マンガ	2 (1.7)	・マンガ・柴門ふみ (2)
12. あまり読まない	2 (1.7)	・読まない方だ・あまり読まない (2)
13. その他	15 (13.4)	・栄養関係 (1) ・消費生活関連 (1) ・テレビドラマの原作本 (1) ・昔ベストセラーだった本 (1) ・昔の人が書いた本 (1) ・コメディ系 (1) ・楽しく笑える本 (1) ・花の本 (1) ・日記 (1) ・歴史物 (1) ・心理分析系 (1) ・月刊雑誌や週刊雑誌 (1) ・空想的な本 (1) ・感動するもの (1) ・法律関係 (1)

n = 113 (単位:件 複数解答)

5. 新聞の購読状況と情報収集メディア

1)新聞の購読状況と情報収集メディアの比較
 新しい情報収集メディアに記載のあった79人の記載総件数159件(無回答1人の記載件数2件を除く)を、①「電気通信系のマスメディア」、②「活字によるマスメディア」、③「マスメディア以外」に分類し、さらに新聞の購読状況別に比較したのが図2-1である。「電気通信系のマスメディア」では、新聞を『読まない』が最も多く78.3%、『時々読む』56.6%、『毎日読む』43.4%であった。「活字によるマスメディア」では、新聞を『毎日読む』が最も多く47.0%であり、『時々読む』30.2%、『読まない』13.0%であった。これらには、5%水準で有意差がみられた。

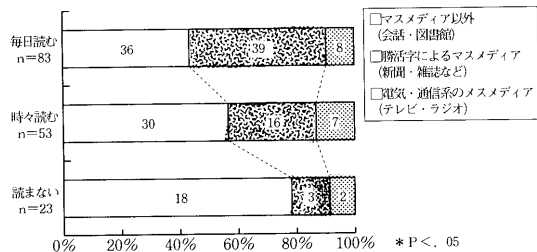


図2-1 新聞の購読状況別にみた情報収集メディア (単位: 件 複数解答)

2)情報収集メディアにテレビと記載した人の割合

新聞の購読状況別に新しい情報収集メディアに「テレビ」と記載した人の割合を示したのが、図2-2である。新聞を『毎日読む』は86.1%、『時々読む』は92.3%、『読まない』は100%であった。

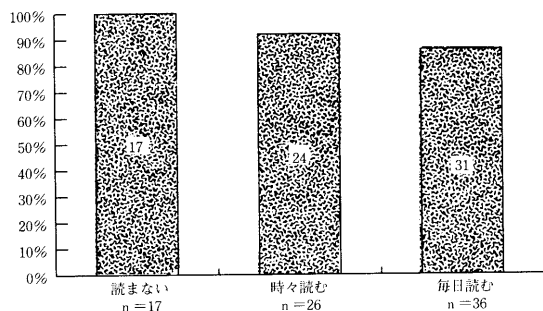


図2-2 新聞の購読状況別にみた新しい情報収集のメディアに「テレビ」と記載した人の割合 (単位: 人)

3)新聞の購読状況と情報収集メディアの種類数

新聞の購読状況別に情報収集メディアの種類数を示したのが、図2-3である。新聞を『毎日

読む』36人中、「2種類」が17人、「3~4種類」が14人で、両者をあわせると86.1%、『時々読む』26人中、「2種類」が13人、「3~4種類」が7人で、両者をあわせると76.9%であった。しかし、『読まない』17人中、「2種類」が5人29.4%で、「3種類」は、一人もいなかった。これらには、1%水準で有意差が見られた。

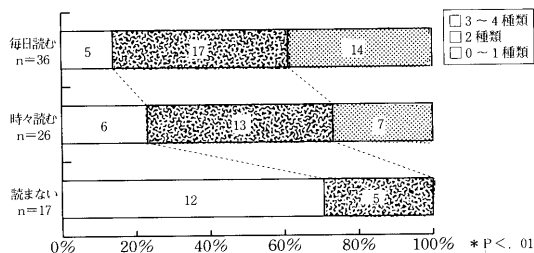


図2-3 新聞の購読状況別にみた情報収集メディアの種類数 (単位: 人)

6. 新聞の購読状況と好きな新聞欄

新聞を『毎日読む』36人の好きな新聞欄の記載件数54件、および『時々読む』26人の記載件数29件をそれぞれ部門・分野別に比較したものが、図3である。新聞を『毎日読む』は、「政治・社会」が21件(38.8%)と最も多く、次いで「スポーツ」15件(27.8%)であった。また『時々読む』も、同様に「政治・社会」が12件(41.5%)と最も多く、次いで「スポーツ」7人(24.2%)であった。

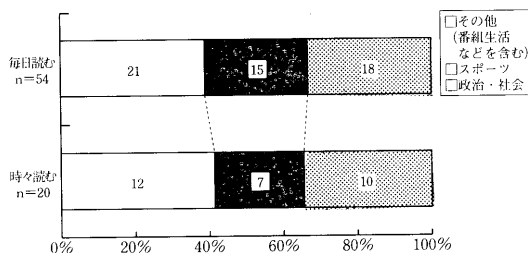


図3 新聞の購読状況別にみた好きな新聞欄 (単位: 件 複数解答)

7. 新聞の購読状況と読書の種類数

新聞の購読状況別にみた読書の種類数を示したのが、図4である。新聞を『毎日読む』では、「1種類」18人(50.0%)、「2種類」12人(33.3%)であり、『時々読む』では、「1種類」17人(65.4%)、「2種類」5人(19.2%)、『読まない』では、「1種類」11人(64.7%)、「2種類」4人(23.5%)であった。

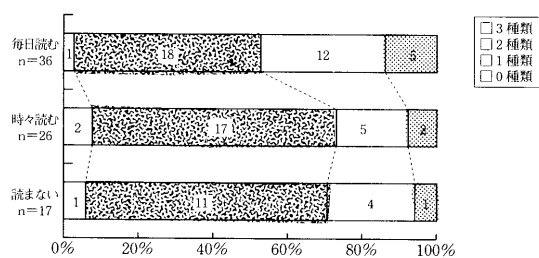


図4 新聞の購読状況にみた読書の種類数

(単位：人)

V. 考察

1. 新しい情報収集メディアについて

記載総件数の約半数が、新しい情報を「テレビ」から得ていることは、テレビが身近にあり、幼い頃よりそれをみる環境であること、つまり、テレビが学生の生活の中に一体化していることが考えられる。また、NHK国民生活調査⁵⁾によると、他のことをしながらテレビを見ている人の割合は国民全体の73.1%である。つまり、テレビは、他のことをしながらでも情報を得やすいメディアであり、そのため「テレビ」から情報を得ていることが多いと考えられる。

2. 新聞の購読状況と好きな新聞欄について

寺出ら⁶⁾の女子大学生・短大生を対象とした朝の生活行動調査では、新聞を『毎朝読む』が20%で、『毎朝読む』と『時々読む』を合わせると56%であった。「毎朝」と限定しているので、同じ比較はできないが、本学の学生の、新聞を『毎日読む』45%、『毎日読む』と『時々読む』と合わせると77.5%というのは、新聞を読むことが多い傾向にあると思われる。一方、新聞を『読まない』学生は、21.2%であった。新聞を読むことは、流れる情報をとらえることとは違い、物事の経緯や多方面な考え方を自分のペースに合わせて読み、考えることができるという利点があることが考えられ、今後、新聞を『読まない』学生に対し、この利点を指導していく必要があると思われる。

好きな新聞欄を部門・分野別に分類すると、「政治・社会」が多い。しかし、記載内容を具体的にみると「スポーツ」「県内の出来事」「テレビの番組欄」などが多く、日常生活の身近な欄を好んでいるといえる。また、看護学科を選択している学生ではあるが、看護に関連する分野については、あまり情報を得ていない。さらに「サイエンス」「文化」についての記載がない。これらの結果から好きな新聞欄には、偏りがある

といえる。「好きな新聞欄」であるため、偏りがあることは当然であろう。しかし、看護を実施するためには、対象を幅広く理解する必要がある。したがって、対象の背景となる文化や多様な情報が必要であることから、多方面の情報に興味、関心を持つ教授内容にし、また、視野が広がるように指導していかなければならないと考える。

3. 読書の領域・種類について

学生の読書の領域・種類では、「小説」、特に「推理小説」が多かった。森⁷⁾の女子短大生の調査でも、好きなジャンルの1位がミステリーであったことから、この年代の学生は、ミステリーなどを好んで読んでいると思われる。また、「看護・医療関係」「福祉関係」の本の割合は、14.2%であった。森⁸⁾の一般短大生の好きなジャンルの15位までにこれらが入っていないことと比較すると本学の学生は、その領域に興味関心が、一般短大生と比較すると高いと思われる。これは、看護学科の学生の職業志向が、読書志向に影響を与えているためと考えられる。

4. 新聞の購読状況と情報収集メディアについて

新聞を『毎日読む』学生は、情報収集メディアの数が多い。このことから、興味の幅が広く多種類のメディアから情報を得ていると思われる。

一方、新聞を『読まない』学生は、新聞だけでなく「雑誌」「本」などの「活字によるマスメディア」からの情報も少なく、「テレビ」「ラジオ」の「電気通信系のマスメディア」からほとんどの情報を得ていることがわかる。このことは、新聞を『読まない』学生が情報収集メディアとして「テレビ」と記載した割合が100%であったことから裏付けられる。新聞を『読まない』学生は、活字を読むことに慣れていないために「新聞」をはじめ「雑誌」「本」なども読まない傾向にあると考えられる。専門職を目指す短大生にとって、活字を読み、論理的に思考を組み立てることは、自らの思考をまとめたり、深めたりするためには、不可欠であるため、新聞を『読まない』学生には、活字から思考を深めていくような何らかの教育的アプローチが必要であると考えられる。

5. 新聞の購読状況と好きな新聞欄

新聞を『毎日読む』学生も、『時々読む』学生も、「政治・社会」や「スポーツ」欄を好む傾向

にある。つまり、新聞を読む内容には差がなく、新聞を読む頻度の差であり、同じことに興味を持っていると考えられる。

6. 新聞の購読状況と読書の種類数

新聞を『毎日読む』学生は、『読まない』学生に比べ、多種類の読書をする傾向であった。多種類の本を読むことは、興味の広がりがあると思われる。一方「1種類」の本しか読まないことは、その種類に傾倒しているとも考えられるが、興味の幅が少ないとも考えられる。森⁹⁾の印象に残った本を読んだ理由に、「先生にすすめられて」「授業で紹介されて」とあることから、教員のアプローチが読書の内容に影響を与えることがわかる。したがって、新聞を『毎日読む』学生には、さらに興味の広がりを持つるように、また『読まない』学生に対しては、興味を持つように教育的アプローチをすることが学生にとって有用であると考えられる。

本研究の限界は、1)対象者の背景について調査していないため、その点からの分析が深められていない、2)1施設の調査であるため一般化に限界がある、等が上げられる。

今後の課題は、これらの研究の限界に挑戦することであり、また、学生の変化を継続的に調査しながら明確にしていくことである。

VI. 結論

今回の調査により、以下のことが明らかになった。

1. 新しい情報を得るメディアとしては、「電気通信系のマスメディア」が多く、特に「テレビ」が多かった。
2. 新聞を毎日読んでいる学生が約半数おり、好きな新聞欄では「スポーツ」「県内の出来事」「テレビ番組」など、身近な欄が多かった。また、看護に関連する欄を読んでいる学生は、あまりいなかった。
3. 読書の領域・種類は、「ミステリー小説」を中心に幅広い種類の本を読んでいた。専門領域の本を読んでいる学生の割合は、14.2%であった。
4. 新聞を『毎日読む』学生は、情報を得るメディアの数や、読書の種類数も多かった。一方、『読まない』学生は、全員が「テレビ」から情報を得ており、新聞だけでなく、活字に

よるマスメディアからの情報も少なかった。

VII. おわりに

今回の調査にご協力くださいました本学の看護学科1期生に心より、お礼申し上げます。

引用文献

- 1) 小畑 義,村上静子,洲脇絢子他:平成元年度学生生活実態調査報告書,京都市立看護短期大学紀要, No.15, pp.52-53,1990.
- 2) 寺出浩司:現代の若者像,実践女子短期大学評論, No.13,p.52,1992.
- 3) 森 智彦:東横学園女子短期大学生の読書調査,東横学園女子短期大学紀要, No.23,P.138, 1988.
- 4) 知恵蔵,朝日新聞社,p.4,1996.
- 5) データブック国民生活時間調査, NHK放送文化研究所, p.12, 1995.
- 6) 前掲2),p.52.
- 7) 前掲3),p.138.
- 8) 前掲3),p.138.
- 9) 前掲3),p.136.

参考文献

1. 稲葉三千男:新聞学「第3版」,日本評論社,1995.
2. 金内花枝:生活行動の時間的分析,駒澤大学苫小牧短期大学紀要, No.22, 1990.
3. 金内花枝:生活行動の時間的分析(第2報),駒澤大学苫小牧短期大学紀要, No.23, 1991.
4. 増田依子,川上公代:女子短大生の生活時間の実態,大阪上野学園短期大学紀要, NO.35,1991.
5. 森 智彦:東横学園女子短期大学生読書調査,東横学園女子短期大学紀要, No.23,1988.
6. 森下恭光,佐々井利夫:増補「道德教育の研究」,明星大学,1996.
7. 小畑 義,村上静子,今川悦子他:昭和62年度学生生活実態調査報告書,京都市立看護短期大学紀要, No.13, 1988.
8. 小畑 義,村上静子,今川悦子他:昭和63年度学生生活実態調査報告書,京都市立看護短期大学紀要, No.14,1989.
9. 小畑 義,村上静子,洲脇絢子他:平成元年度学生生活実態調査報告書,京都市立看護短期大学紀要, No.15,1990.
10. 世論調査年間,総理府内閣総理大臣官房広報室,1995.